



北海道立農業大学校

聖鋤会報

発行所
北海道立農業大学校
同窓会

中川郡本別町西仙美里
電話 0156-24-2122
編集事務局

新たな時代へ



北海道立農業大学校同窓会

会長 若井和博

同窓会の皆様には、日頃より御理解御協力を賜りまして、心より感謝申し上げます。と共に災害に見舞われました方々にはお見舞い申し上げます。今年度の同窓会活動の一つとして、六月に農業大学校六十周年記念行事が執り行なわれました。内容としては、記念植樹・同校の卒業生による講演などでしたが、同窓会として一つの節目の時に会長として参加できたことを喜ぶと同時に、これからの自分に課せられた責任を感じ気を引き締めた次第です。

大転換期を迎える訳ですが、農業従事者にとってよりよい政策になるよう願わずにはいられません。同窓会としても、これらのことにどう関わっていったらよいか、自分達なりに模索しながら活動していきたいと考えておりますので、今後共よろしくお願い致します。



受賞おめでとうございます。



小原 一二氏



北海道産業貢献賞
表彰状

前同窓会長 小原 一二氏 道産業貢献賞受賞

平成一八年二月三日に二〇〇五年度北海道産業貢献賞（農業関係功労者）の表彰式が札幌で行われ、前同窓会長の小原一二さん（音更町）が受賞されました。

小原さんは一九八四年から現在まで北海道指導農業士として活躍され、この間、七十五名の実習生・研修生を受け入れるなど、農業の担い手育成に尽力されました。また、十勝管内指導農業士会会長、北海道指導農業士協合理事の要職も務めました。

小原さんは、農大へ受賞の報告に訪れ、「お金では買えない素晴らしい賞をいただいた。大勢の方に祝福されることは、終生忘れることのない無情の喜び。指導農業士は六十五歳で定年だが、今後も農業を希望する人達にできるだけ農業の実態や厳しさを話していかなければと思う」と語って下さいました。

期別世話役

- 〈農講〉 2 鈴木一義 / 3 川端治 / 5 菅谷誠 / 渡辺善信 / 7 大沢義一 / 8 植田博 / 9 森田洋三 / 10 森山睦美 / 11 大平清吉 / 13 辺見政孝 / 16 小南和夫 / 17 佐川満 / 18 吉田甫 / 19 西山利昭 / 20 河田裕 / 22 石川眞清 / 23 松崎文一 / 25 仲鉢昭夫

- 〈農大〉 1 川本秀二 / 2 和田嘉晴 / 3 塩村昭博 / 4 石丸博雄 / 5 高井正行 / 6 道下貞夫 / 7 笹島喜郎 / 8 岩井敦史 / 9 井出和実 / 10 富山和也 / 11 石原英之 / 12 森本耕二 / 13 宮本成行 / 14 牧村康弘 / 15 小松洋一 / 16 遠山昇治 / 17 田村直樹 / 18 大碓晋二 / 19 近藤大樹 / 20 三田浩司 / 21 佐藤昭徳 / 22 熊谷直哉 / 23 田中真理子 / 24 塚田秀則 / 25 齋藤かおり / 26 日光純一 / 渡邊基樹 / 27 嶋貫一也 / 柏葉宏樹 / 28 中澤光太郎 / 鈴木隆也 / 29 今野大吾 / 今西大和 / 30 佐藤貴文 / 山木秀幸 / 31 幕田圭一 / 中澤好喜

- 〈農大稲作〉 1 吉田和浩 / 2 大江博之 / 3 穴戸聖 / 4 平塚美明 / 5 水嶋淳 / 伊藤優治 / 6 石川秀樹 / 7 嶋田雅虎 / 8 泊り雅幸 / 9 石崎憲一 / 10 富樫孝 / 11 岡村博信 / 12 平隆之介 / 13 吉見拓也 / 14 吉村正之 / 15 森勇貴 / 16 石川大輔 / 17 竹内誠 / 18 國岡晃平 / 19 中山義之 / 農大研究 / 1 内野康晴 / 2 加藤幸嗣 / 3 木村晴美 / 4 山岸淳 / 5 中西崇継 / 6 今西大和



新生農業大学のスタートについて

北海道立農業大学校

校長 高田 徳 歟

同窓会の皆様には、日頃から、本校に対し、格別のご理解とご協力をいただき、この紙面をお借りして、感謝を申し上げます。

また、本年は、昭和二十一年に北海道庁立農業講習所として発足以来、記念すべき創立六十周年を迎え、同窓会の皆様のご協力により、記念行事を簡素な中にも厳粛に挙行することができましたことに対し、重ねて感謝を申し上げます。

この歴史と伝統を積み重ねた中で、卒業生は四、二〇〇余名を数え、全道各地で、中核的な農業経営者として、更に地域農業における指導者として、幅広く活躍されており、職員・学生を代表して、心から敬意を表する次第であります。

さて、道では、本道農業・農村の持続的な発展に向けた道内関係者の共通指針として、「北海道農業・農村ビジョン21」を公表し、消費者と生産者の信頼関係を基本に、「食」と「環境」、これを支える「人」と「地域」をキーワードとして、農業者が将来に向け希望と誇りを持って取り組める農業と誰もが住み・訪れることで喜びを感じ

る魅力ある農村を目指し、地域の個性が輝く活気ある本道農業・農村づくりに取り組むこととしております。

この中で、本校には、次代を担う多様な元気な人材づくりの中核的な施設として、更に全道唯一の公設農業者研修教育機関として、引き続き本道農業・農村を守り・支える農業者に対し、実践的な教育を基本に、近代的な農業経営に必要な知識・技術を研修教育し、創造性豊かな意欲ある担い手の育成・確保に努めることが期待されております。

このため、本校としては、将来、就農する学生には実践的な研修教育の場として、更に高度な技術等を習得する一般農業者には生涯学習の場として、〈夢と希望を与える魅力溢れる、地域に開かれた農業大学校〉を目指し、これまで以上に研修教育体制の充実・強化に努めて参りたいと考えております。

一方、道は、極めて厳しい財政状況にあり、持続可能な行財政構造の確立に向け、聖域なき行財政改革に全庁挙げて取り組んでおりますが、本校にもこれまで以上に効率的な運営が強く求められております。

こうした中、本校では、簡素で効率的な運営に努めるとともに、研修教育体制のより一層の充実・強化を図るため、本年四月から、これまでの農業改良助長法に基づく〈農業者研修教育機関〉に加え、新たに学校教育法に基づく〈専修学校〉に位置付け、卒業生に「専門士」の称合を授与するとともに、より高度で幅広い知識を取得したい卒業生には農業系大学等への編入学が可能になりました。

今後、本校は、「専修学校」新生農業大学校としてスタートすることになりましたが、これからも激動・変革の時代にも対応できる創造性に溢れた人材づくりに向けて、本校の実践的な教育は堅持し、伝統と使命を守りながら、皆様からのご期待に応えられるよう、私も職員・学生一同、更なる努力をして参りたいと考えておりますので、同窓会の皆様には、変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

農大トピックス

「農大アイスはいかがですか？」

今年、農業経営研究科は「農畜産物加工・販売実習」の中で製造したアイスクリーム（バナナ、抹茶、あずき）を、「仙美里ヶ丘」の名前で販売しました。

農大祭はもとより、本別町内のイベントにも積極的に出店。旧本別駅の物産店でも人気の商品となっております。

七月には帯広市で開催された「国際農業機械展」に出店。来場されていた同窓生の皆様にもアイスを味わって頂き、大変好評を得ました。

研究科では、自家経営の即戦力及び地域のリーダーとして活躍する担い手の育成を行っています。

学生達は、「農畜産物加工・販売実習」を通して、将来、地域おこしや経営戦略に役立てることを目的として、農大で生産された農畜産物を利用し、加工技術の習得や販売のノウハウ等を学んでいます。

実習から生まれた「仙美里ヶ丘」のアイスクリーム。是非、一度ご賞味下さい。



農業機械展にて

期別活動

●農講七期生同期会

幹事 土門 満雄

講習所七期生は第三回目の集まりを「日十八年七期生の集い」として去る六月六日に十勝川温泉笹井ホテルで八名が参加して木村猛三先生を囲んで開催し、楽しい一夜を過ごしました。



十勝川温泉 笹井ホテルにて

●農講十一期生同期会

幹事 石塚 茂

平成十八年四月九日定山溪温泉で、卒業五十年の同期会が開催された。住所確認に苦慮したが、当時の木村猛三、尾上駿策先生をはじめ、北は佐呂間町、南は乙部町から十八名が参加した。

五十年ぶりの再会者が多く、当時の面影が薄れたことから同期会は、自己紹介と近況報告から始まったが、さすが同期生三十分後には在学中の秘話が続きし思い出に残る同期会であった。



定山溪温泉にて

●農大二十九期生同窓会

幹事 今野 大吾

我々二十九期卒業生は平成十八年一月二十日十勝川・観月苑において、久しぶりの再会を果たした。宴会会場には五十人を超す畑作園芸経営学科と畜産経営学科、両学科の同期の仲間や恩師の姿が。

長い間会っていない人も多く、懐かしさから自然と笑顔がこぼれていた。懐かしい農大時代の話、又は、個々の生活ぶりやこれからの未来について話が飛び交った。その一方で、「何だっけなあ、あいつの名前……?!」(笑) 同じ農業という舞台で共に高め合える素晴らしく、誇れる奴らばかりだ！これから先も変わることはないと信じている。

我々二十九期生は、農業後継者・農業に携わる者として全道各地で頑張っ て参りますのでこの先もよろしくお願 い致します。 またみんな、笑顔の再会をしよう！



十勝川温泉 観月苑にて

●農大三十期生同窓会

幹事 曾根 教勝

三十期生の同窓会を平成十八年六月十七日に富良野で開催しました。なぜ、卒業して一年ちよつとで同窓会を催したかという、同期である「本山忠寛」の結婚式があったからで、全道各地から集結し、結婚式を農大流で盛大に祝い、富良野で楽しい夜・熱い夜をそれぞれ酒を交えながら楽しみました。



●農大研究科四期生同窓会

幹事 山岸 淳

研究科四期生同窓会を、平成十八年二月十日、十一日に十勝川温泉第一ホテルで行いました。

諸事情により参加できない方もいましたが、五期の同窓生やお世話になった先生方々と久しぶりに会うことができて嬉しく思いました。



研究科の二年間、養成を含めると四年間過ごした仲間が集まると卒業後二年しか経っていないけどとても懐かしく楽しい時間を過ごす事ができました。二次会で任天堂DSなどを持ってきて皆で楽しんでる姿は、学生の頃と変わらないという印象でしたが、この二年間社会に踏み出した事により、皆とても大きく成長したようにも感じました。

青年農業者会議で良い成績を残した人もいれば、経営の一端を担っている人もいます。また、地域の人達といろんな事に取り組んでいる人もいました。皆が少しずつ経営者として自家に携わっている姿を見て、自分も頑張らなければと思いました。これからのことある事に時間を作って開催したいと思えます。

●農大研究科五期生同窓会

幹 事 櫻井 浩章

平成十七年十一月十八、十九日にかけて静内町の聖心台牧場のコテージにて研究科五期生の同窓会を参加者十名で行いました。

初雪の便りが聞こえてくる頃で道路の心配もありましたが何とか持ちこたえて順調にやってきたのですが、コテージに着くと暖房の燃料切れが発覚。この日は特に冷え込みが厳しく、凍死覚悟のサバイバル同窓会となりました。焼き肉をして、コテージに戻り飲み直し、ギターの音が鳴り響く。このメンバーが揃うと、いつでもあの寮生活の雰囲気に戻ってしまうのだなと懐かしい心地よい雰囲気の中で嬉しい気持ちになりました。

それでも、話す内容は変わってききました。夢だけではない現実の厳しさ、そんなことが少し見えてきているように感じました。社会に一步踏み出した皆のたくましさを感じ、自分もすっかりしなげればと再確認する二日間になりました。

最終的には寒さも忘れ、過ぎていった二日間はあると、名残惜しい



気持ちにもなりましたが、またの再会を誓いつつ帰路に着きました。今回は、今回参加できなかった仲間とも再会したいと願っています。

同窓生の広場

「十勝平野」



酪農経営学科 七期生 山田 俊彦 (根室町)

今日の搾乳も終わり、パソコンに向かうのが日々の日課になっている今日この頃、農大卒業の皆様元気でお過ごしでしょうか？私は農大七期生、二年制になってから初めて先輩の元、農大の伝統と風習を作り上げた年代でした。農業を学ぶ以上に仲間とふれあうのがとても楽しい毎日でした。

あれから二十五年当時は今のような娯楽もなく日々、寮と農場、体育館を行き来する毎日でした。

特にバレーボールは本別町でも農大に敵なし、そんな時代でした。また駅伝大会にも数々参加して、今でもあの時の苦しさが今の自分の粘りになっているようです。そんな学生生活でした。そんな楽しい寮生活も後にし、あれから二十五年、農業の情勢も目まぐるしく変化し、酪農においては三度の牛乳の生産調整を経験し、その都度、周

りの仲間達も離農を余儀なくされ、気がついた時には就農当時の半分にまでなを信用してこの仕事を続ければよいのか悩んだものです。

そんな時、頭をよぎるのが「大空と大地の中」で十勝平野をキャンパスに学んだ二年間、苦しみ、悲しみ、そして、楽しさ、それを乗り越えて来られたのも、寮生活を基本にする農大精神が宿っているからだとおもいます。

これからも幾多の難関を乗り越えたいと信じて、皆様の農大魂に勝利あれ！

「顔の見える農業」を目指して



稲作経営専攻コース 十三期生 吉見 拓也 (雨竜町)

みなさん、お元気ですか？農大を卒業して、早七年が過ぎようとしています。

私は稲作専門コースだったこともあり、在学中のほぼ全てを深川市の拓殖短大で生活したので、寮生のような農大らしい経験というのは出来なかった部類ですが、年に二回の農大で講義があるときは、講師たちの顔を見るのが楽しかったものです。また、拓大で出会った仲間たちとは地域が近いというのもあるでしょうが、今でも農大の同期たちと一緒に酒を酌み交わしながら農業について語っています。

私も卒業後は、道立花・野菜センターの臨時職員として三年間勤務をしました。稲専の私にとって花卉や野菜は全く未知の世界でしたが、そこで勤務しながら栽培法など数多く学べたことはとてもいい経験になりました。また、そこでも研修生や職員との横のつながりが出来たことも、大きな財産です。

現在は、水稲中心でそば・大豆を作付けしています。まだ経営移譲はしていないので「手伝い」という枠からなかなか出られていませんが、その時期まで経営の基礎体力を今のうちからつけているところです。稲作農家には冬の時期が続いています。今年も、春先の天候の遅れが最後まで響き、収量はあったが品質が悪いという結果になったのも数知れません。

今後は、経営形態を見直しながら、地域にあった作物の栽培展開や仲間とともに知恵を出して、増益そして「顔が見える農業」というのを目標にしていきたいと思っています。

北海道の農業とても厳しい時期です。若い私たちが知恵を出し合い頑張りましょう。



新しい仲間

農大で学んだこと



畜産経営学科
三十一期生
高木 雄大
(上士幌町)

同期のみんな、元気に頑張っているかい？そして先輩方、これからよろしくお願いします。

農大を卒業し八ヶ月ほど経ちました。農大で過ごした二年間を思い返すと、とても充実し、楽しかったと思います。寮で語り明かし、酒を交し、共に過ごした事。先輩方と良い関係を築く事。授業や実習で学んだ事等、これから酪農業を営んでいくうえで必ず生きていくはずだと思えます。

私は「知識を付けたい」というよりは、「仕事のできる人間になりたい」という気持ちで農大に入学しました。枝拾いや石拾い等の地道で正直面白くない実習もありましたが、自分達で考え自分達で行う農大の実習で私は大きく成長したと思います。今では一部の仕事を任せられ、日々悪戦苦闘しています。農大を卒業し、就農してみると、二年間学んできた事が生きており、本当に良かったと思っています。これから多くの仲間を作り、学んでいき、我が家が発展できるよう頑張っていきたいと思えます。

そば屋でフォー!!



畑作園芸経営学科
三十一期生
鈴木 孝昌
(網走市)

農大卒業生の皆さん、そして同期生のみんな、元気にしていますか？私は在校中、ハード・ゲイと呼ばれた男です。

私は今、幕別町の農家さんに研修に入っています。そこではつらい実習をする場合もありますが、将来のためと思い頑張っています。

研修先の農家さんでは、そば屋も経営しています。私は料理が得意であることから、そば打ちの修行もしています。今では、私の打ったそばも提供されていますが、お客さんの反応を見てビックリした日々が続いています(近頃はだいぶ上達しました)。近くに来た時は是非、寄って下さい。さて最後に……いっちょ愛してる？

農業人1年目



稲作経営専攻コース
十九期生
今 光
(苫前町)

農大を卒業し、早くも一年がたとうとしています。僕は、何事も一年目が大事だと感じ、自分の農業の未来を思い浮かべてただガムシヤラに行動しました。はじめに親の手伝いにあきた僕は、ミニトマトをやることを決断し実行に移しました。間口七・二メートルの七十五メートルハウスを作りミニトマトを生産しました。現在家の主流である米、豆、イモ、麦等の価格低下も考えての決断でした。今年ミニトマトの価格も良好で来年はもう一つハウスを増やす予定です。しかし野菜は手間がかかります。そこでなぜ米等の価格が安いのかを考えました。それは自分達で売らないからです。生産者から直で消費者へ。販路を得るために自分でチラシを作り、配り、新聞の折り込みにも入れました。ミニトマトとの両立はとても大変でした。それでも注文をたくさんの方々からいただき予定数量を無事完売することが出来ました。農協から良くは思われなかったけど少しでも自分達の作物を自分達の手で販売するこれが交流の場にもなるし、消費者の安心にもつながると思えます。一年目から生意気だとは思いますがこのス

タンスを一生貫き通したいと思えます。来年はどのように生産、販売しようかと親と話し合い今年よりもよりよいものになりそうです。農業って楽しいですね。

農大で得たもの



農業経営研究科
六期生
高田 昌幸
(北竜町)

農大のみなさん、同期のみなさんお元気ですか。みなさんが、毎日笑顔で汗を流している姿が目につかびます。今年の春、農業経営研究科を卒業し早くも一年が経とうとしています。学生の頃は分からなかった一日一日の大切さ、一時間を有意義に使う難しさを日々実感しています。「この仕事は明日やろう」と先延ばしに考えているといつまでもゴールは見えてきません。今日の仕事は今日しかできない。今の自分ができる事に最大限の力で取り組むこと。これが私の今後の目標です。農大で過ごした二年間の日々は、私に素晴らしい仲間と農業の可能性、そして体重の増加を与えてくれました。もし研究科に入っていないならば、農業を平面的にしか見ることができなかったでしょう。これからは農大で学んだ事を活かし、様々な角度から農業にアタックしていきます。農業の形は無限大!!



農業大学校創立六十周年記念行事

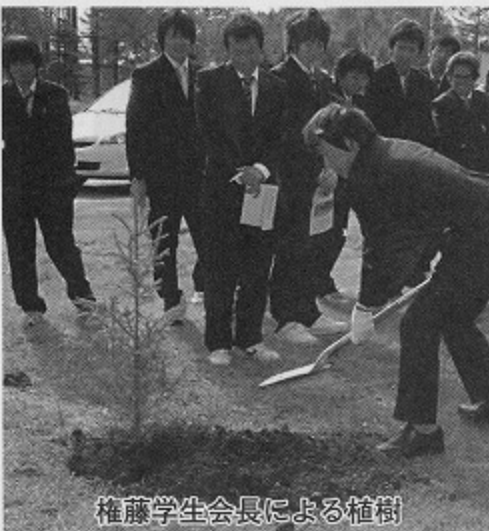
北海道立農業大学校創立60周年記念行事



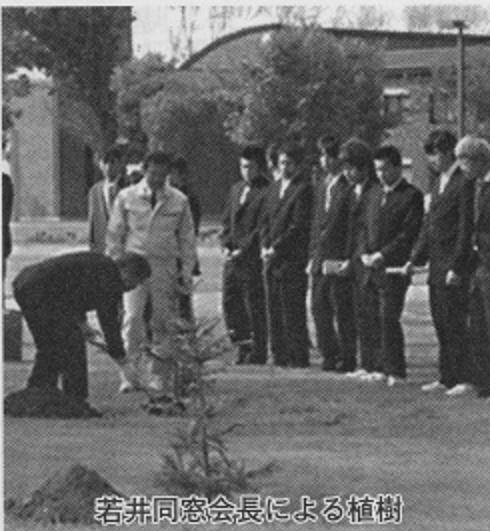
農大11期生 平 和夫氏による講演

平成十八年六月二日に農業大学校創立六十周年記念行事が行われました。農大は昭和二十一年「北海道庁立農業講習所」として発足以来、同四十九年に北海道立農業大学校に改編されました。以来、約四、三〇〇名の卒業生を送り出し、北海道農業の牽引力となる担い手育成に貢献してきました。本校ではこれを祝い、記念講演と植樹が行われました。

記念講演は、「育み拓く聖欽のこころ」と題し、農大十一期生である新得



権藤学生会長による植樹



若井同窓会長による植樹

町 平 和男氏に学生時代の話から、現在の農業情勢に至るまで、幅広い話題で語って頂きました。

また、校長、同窓会長、本別町長をはじめ、学生会長等で農大の杜（中庭）に七本のエゾアカマツを植え、農大の伝統とともに育ってくれることを願いつつ、無事式を終了致しました。

お知らせ

- 1 会費及び寄付金のお礼及びお願い
六十周年記念行事及び同窓会活動に対し、会員の皆様方より多大な寄付をいただきましたこと、厚く感謝申し上げます。ありがとうございます。
・寄付金 六十万二千円
(平成十七年十二月～平成十八年十一月)
- 2 支部活動及び同期会
支部及び期別活動を計画された際は、同窓会事務局までご一報下さい。諸経費の一部として活動費を支出します。また、ホームページや会報等で紹介させて頂きますのでよろしくお願ひいたします。
- 3 個人情報保護法について
二〇〇五年四月より、個人情報保護法が全面施行され、同窓会事務局においても個人情報保護の保護に対し、配慮を行ってまいりました。
同窓会では、卒業生四、三〇〇名の名簿を取り扱っておりますが、利用の目的は
①同窓会報の送付、会費・寄付の依頼
②同窓会行事の案内
など、同窓生への案内等に限定されています。
しかし、同窓生、各支部、各市町村等関係機関より要請があった場合、使用目的が明確で適切なものに限って個

人情報を提供致します。

(例)

- ①同窓会を開きたいので同級生の連絡先が必要な場合
 - ②関係機関による担い手調査 等
同窓生・関係機関等への利用に抵抗を感じられる方は、対象から除外させて頂きますので、事務局までご連絡下さい。
- また、本人の申告に基づく個人情報内容更新・修正を随時行っておりますので、住所等変更がありましたらご連絡下さい。

編集後記

▽年もせまり何かとご繁忙のことと思いますが、同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか？
今年も、同窓会『聖欽会報』三十二号をお届けでき、嬉しく思っています。

▽今年は今期別活動が非常に多く、大変嬉しく思っております。五十年振りの再会から卒業一年の新米会員まで、「釜の飯」を共にした頃の話題で盛りあがったようですね。いくつになっても農大のよき思い出を胸に抱かれています。様子がいよいよと伝わって参りました。

▽同窓会事務局は、皆様の活動が円滑に行えるよう一層努力して参りますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

(事務局)